

2019 年度 A O 選抜 文学部 東アジア研究学域
「国際方式（中国語・朝鮮語／キャンパスアジア）」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
東アジア研究学域	29	13	8

2. 第一次選考

(1) 評価ポイント

第一次選考での評価ポイントとして重視したのは、以下の点です。

- ① 東アジア研究学域を志望した理由が、明確に説明できているかどうか。
- ② 東アジア研究学域の教学内容やキャンパスアジア・プログラムなどの内容を把握できているかどうか。
- ③ 高校時代に、東アジアに関する学習に対してどのように取り組み、またどのような国際交流活動を経験したのかについて、具体的に説明できているかどうか。
- ④ 東アジアを対象とする研究テーマあるいは諸問題に対して、論理的・客観的な観点から論じられる基礎学力を有しているかどうか。

以上の評価ポイントに対して、高校時代の国際交流活動に関して自己分析・評価ができているもの、入学後の学習計画に関して国際的な学びや活動への積極的な関心やビジョンが明示されているもの、主体的な問題意識を持ちつつも多様性を重視する姿勢・視点を有しているものについては、特に高く評価しました。

(2) 解答状況

志望理由書の多くは、東アジアへの高い関心と学びへの意欲が強く感じられる内容でした。また、将来への展望についても明確に書かれていました。一方で、これまでの自分の経験に関する記述に力点を置き過ぎるあまり、文章全体の構成が偏ってしまい、話の内容に一貫性を欠く結果となってしまったものも見受けられました。

3. 第二次選考

(1) 評価ポイント

第二次選考では面接試験を行いました。評価のポイントについては、下記の 4 点について、自分の言葉で適切に回答できるかどうかを重視しました。

- ① 高校時代の活動など、自分のアピールポイントについて
- ② 東アジア研究学域を志望した理由、および東アジアに対する具体的な関心について
- ③ キャンパスアジア・プログラムをはじめとする立命館大学の海外派遣プログラムへの意欲
- ④ 大学で学んだことを卒業後のキャリアにどう結び付けるかについて

特に、暗記した内容を話す人よりも、質疑応答の流れの中で自分の考えを説明できる人や、その場で考えながら自分らしい言葉で回答する人に、高い評価を与えました。

(2) 解答状況

受験生のほとんどが、キャンパスアジア・プログラムをはじめとする東アジアへの留学や国際交流に強い関心を持ち、また本学域での学びのビジョンについて話すことができていました。その一方で、応募書類に書かれている内容については淀みなく話すことができて、想定していない質問については十分な回答ができない人も見られました。逆に、どの質問についても過不足なく適切な回答をしている人や、想定外の質問にも丁寧に考えて回答する人も見られました。

(3) 試験（面接）内容

東アジア研究学域（国際方式）の面接では、上記（1）に記した質問内容の他に、中国語もしくは朝鮮語による質問については、中国語もしくは朝鮮語の短い文章を音読させて、その内容を問う質問をしました。文章のレベルは、中国語であれば中国語検定試験 4 級で出題される程度の、韓国語であれば韓国語能力試験（TOPIK）2 級で出題される程度のレベルになるよう留意しました。

(4) 出題（面接）の意図

面接では、東アジア研究学域での学びを具体的にイメージできているかどうか、海外プログラムに関してどれだけ意欲的に取り組もうとしているかを確認すると同時に、そうした学びを経た上で自分の将来像をイメージできているかどうか確認しました。

なお、中国語もしくは朝鮮語での質問は、各受験生の提出している検定試験のスコアなどの語学基準と同等もしくはそれ以上の語学レベルがあるかどうかを確認するとともに、この段階での語学力の高低は評価の基準としませんでした。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

自分が何を学びたいのか、どのように成長したいのかについて、自分なりのビジョンを持つとともに、入学後に留学や国際交流の場で、自分がどのような役割を果たせるのかについても、日頃から考えるようにしてください。

東アジア研究学域では、学生に対して東アジア全体に対する幅広い視野に立った学びを深めていくことを求めています。受験生の皆さんも、どれか 1 カ国だけでなく、他の国々に対しても日頃から知識と関心を広げていくよう努力してください。

以上